良後はドアより15cm引いて設置したため不都合は解決された。

〔ま と め〕

アンケートに示すように浴槽については大きな問題となっていた、中腰姿勢の介助が少くなり腰痛対策面では、大きく改善されたと思われる。反面ふちが高くなり、成人患者を介助する際身長の低い職員は少し無理をするため、介助は2人以上で行い、浴槽内の介助者と外介助者とが一致協力して効果をあげている。患者のアンケートで、その他の解答率が高いのは、解答者の82%が、全介助を必要なため、直接患者自身には影響がないと解釈してよいのか、無関心と解釈してよいのか一同迷った。今後の課題は、脱衣場の設置はもちろんのこと、障害度に見合った浴槽の設備が、理想的ではないかと思われる。

53 銭湯式浴槽の入浴介助による看護疲労について

国立岩木療養所
成人PMD病棟スタッフ一同
小児PMD病棟スタッフ一同
七 戸 千 恵

〔研究目的〕

PMD看護で重筋的労作は、患者の抱き上げ、抱き下しを行う入浴、機能訓練、排泄介助であると云われている。そこで今回は銭湯式浴槽における入浴介助の生態に及ぼす負担を調査したので報告する。

〔調査方法〕

対象者は表1の通りである。

入浴介助は13時より約2時間の作業である。検査は、平日と入浴日の2日間にわたり行った。フリッカー値と、腱反射閾値の測定は9時、13時、17時の3回。

自覚疲労症状調査は9時、17時の2回。

表1 調査対象者

職 種	年令	分類法
看護婦 1.	23才	A
〃 2.	26才	B
〃 3.	33才	C
〃 4.	53才	D
P T	30才	E

尚対象者（看護婦）1名については、ハートレートテレメーターにより、平日作業並びに入浴作業中における心拍数を5分間隔で記録した。又浴室の作業環境条件を知るため、温度、湿度も測

定した。

〔結果と考察〕

図1　大脳皮質機能を指標としたフリッカー値は、平日と入浴日の比較で、変動率は、5～10%である。

図2　腱反射閾値は平日120%、入浴日137%とに上昇がみられた。

特にＰＴについては、浴槽の中での患者の抱き上げ、抱きおろしを主としているため185%にも達している。

図1　フリッカー値の経過

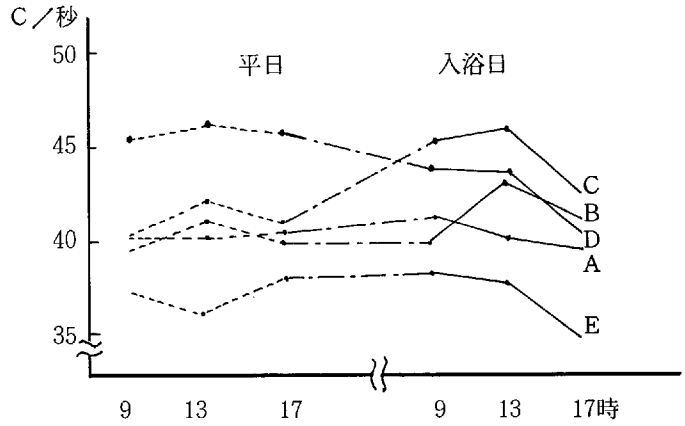

図2　腱反射閾値の変動率

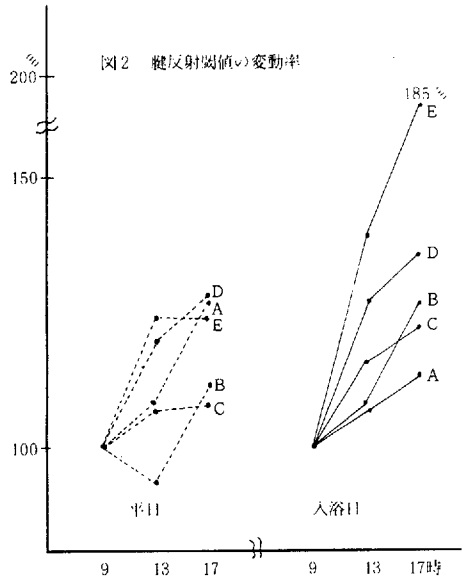

表2　労作強度

労作強度	ＲＭＲ	事務
軽労作（軽い）	0.0～0.9	事　務
中労作（普通）	1.0～1.9	一般看護
強労作（やや重い）	2.0～3.9	
重労作（重い）	4.0～6.9	入浴介助

表2　ＰＭＤ看護は、平均的には中労作でＲＭＲ 1.0～1.9 であるが、入浴、排泄介助等はＲＭＲ 4.0 以上の重労である。

図3　入浴介助中と、平日看護作業中を、5分間隔で記録した心拍数である。平均心拍数平日1分間94.2、入浴介助1分間118.5と著しい差があり、この間に4回も休憩している。これは入浴介助がＲＭＲ 4.0 以上の重労作である事を示している。更に表3に示すように、各種看護労作の平均心拍数でも、平日作業と入浴作業では著しい差がみられた。

表4　自覚的症状調査表（日本産業衛生協会、産業疲労研究会の調査分類を使用）である。入浴日は平日と比べ、作業後の身体的症状（ねむけと体のだるさ）と、神経感覚的症状（局在した身体的異和感）の訴えが増していることからも、入浴介助が重労作であることは判明される。

図3　入浴介助のPwlse

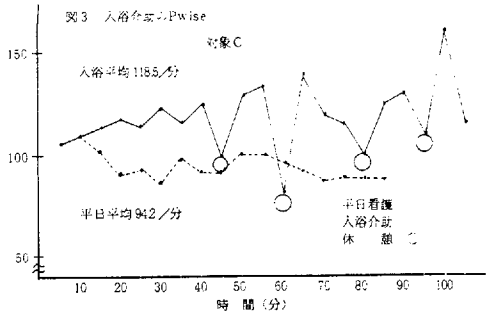

表3　各種看護労作のPwlse

平　日		入　浴　日	
作業名	Pwlse	作業名	Pwlse
安　静	78	安　静	78
小走り	110	入浴介助	100～140
毛布運搬	100	マットかたづけ	120～160
排尿介助	96～110	監　視	100～110
歩　行	90～92	歩　行	108
監　視	90～92	浴室入室	98
事務連絡	92	休けい	80～108
記　録	86～92		
雑　談	86		
病室（温　度21℃ 湿　度70℃		浴室（温　度30～31℃ 湿　度100％	

表4　自覚的症状調査成績

		身体的症状		精神的症状		神経感覚的症状		合　計	
		作業前	作業後	作業前	作業後	作業前	作業後	作業前	作業後
平日	A	2/10	1/10	4/10	3/10	1/10	2/10	7/30	6/30
	B	2/10	3/10	1/10	1/10	1/10	1/10	4/30	5/30
	C	2/10	1/10	3/10	4/10	3/10	2/10	8/30	7/30
	D	2/10	2/10	4/10	3/10	0/10	0/10	6/30	5/30
	E	1/10	5/10	0/10	1/10	0/10	0/10	1/30	6/30
	平均	1.8/10	2.4/10	2.4/10	24/10	1/10	1/10	5.2/30	5.8/30
入浴日	A	3/10	0/10	4/10	0/10	2/10	3/10	9/30	3/30
	B	1/10	6/10	0/10	0/10	1/10	5/10	2/30	17/30
	C	4/10	7/10	1/10	2/10	2/10	5/10	7/30	14/30
	D	6/10	4/10	5/10	5/10	1/10	3/10	12/30	12/30
	E	0/10	3/10	0/10	0/10	0/10	0/10	0/30	3/30
	平均	2.8/10	4/10	2/10	2.6/10	1.2/10	3.2/10	6/30	9.8/30

しかし、日本人気質的満足感、スキンシップの場、残存機能の自覚発見学、患者の人間性を追求する場として、介助者にとっては重労作ではあるが、機械導入では処理できぬ満足感もあり、清拭的温浴ではなく、精神的安緒感が得られている現状を持続する方向で検討する。

54 入浴前後のフリッカー値の比較と要求水準について

国立療養所鈴鹿病院
野口清子　高見礼子
曽根妙子　城　愛子
田中美代子

入浴が筋ジストロフィー症患者の心理に与える影響をみるために、フリッカー検査、要求水準検査法による行動特性検査を行なった。

① フリッカー検査

対象は当院入院中のＰＭＤドウシャン型30例と共同研究施設の徳島療養所20例、いずれも障害度５度から８度、合計50例である。竹井機器製のフリッカー測定装置を用い、上限70下限20の間で被験者がちらつきを感じた瞬間に合図させ、その時の値を記録した。上昇下降を交互に10回測定した。検査は入浴前後30分以内に施行した。

フリッカー検査の結果図１に示した。

入浴前の平均値及び標準偏差は障害度５度、６度群では40.1±6.2、７度、８度群では37.1±4.4であった。入浴後の値は障害度５度、６度群では40.2±5.7、７度、８度群では37.2±4.1となった。このようにフリッカー検査では入浴前後に著しい変化はみられなかった。

② 要求水準検査法による行動特性検査

対象は当院入院中のＰＭＤ患者ドウシャン型21例で障害度は５度から８度である。方法は図２に示したカタカナを５文字毎に区切って逆唱させ、１分間の作業量を求めた。更に作業量を示し「次はいくつ出来ると思いますか」という質問を行ない、次回の目標量を設定させた。検査の施行回数は10回である。条件は中性場面での個人検査とし、指差による計算を禁じた。検査前に１回練習した。検査は入浴前後30分以内に施行した。この結果は２群に分けて集計し、表１に示した。

入浴前の作業量は障害度５度、６度群では、58.4±0.3、７度、８度群では70.3±12.5であ

検索用テキスト　OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔研究目的〕

PMD 看護で重筋的労作は、患者の抱き上げ、抱き下しを行う入浴、機能訓練、排泄介助であると云われている。そこで今回は銭湯式浴槽における入浴介助の生態に及ぼす負担を調査したので報告する。